

ご取材のお願い

平成 24 年 9 月 28 日

南三陸町

宮城県漁業協同組合志津川支所

公益財団法人ヤマト福祉財団

## 南三陸町「仮設 カキ処理場」の落成式の開催について

公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金※」の第 1 次助成先の一つである南三陸町（宮城県）の水産業基盤施設緊急復興事業において建設中であった「仮設 カキ処理場」が完成し、10 月 4 日（木）午後 1 時より落成式を執り行います。

南三陸町は宮城県一の漁獲量を誇る秋サケやアワビの産地ですが、志津川湾内ではワカメ、ホタテ、カキなどの養殖が盛んで、海岸沿いの魚市場、作業場、加工場は活気に満ちていました。しかし、そのすべてが東日本大震災の地震と津波によって奪い去られました。

南三陸町と漁業組合は「仕事を失った漁師や地元住民のため、一刻も早く水産施設を復旧させたい」という思いで国に助成を働きかけ、仮設魚市場や作業所、漁船、機器設備の早期復旧に努めてきましたが、事業費用は、町や漁業組合に重い負担となっていました。

そこでヤマト福祉財団は、早期復旧を目指す南三陸町に昨年 8 月、総額 3 億 4,700 万円を助成し、昨年 10 月には秋サケの水揚げ最盛期に間に合うタイミングで仮設市場が竣工。その後、今年 5 月には「仮設 ワカメ作業所」が完成しています。

このたび落成する「仮設 カキ処理場」は、従来、志津川地区、戸倉地区に各 3 ヲ所、計 6 ヲ所あったカキ処理場を 1 ヲ所に集約するもので、約 85 軒のカキ養殖生産者が作業できる設備が整います。地下のパイプを通してカキ処理場や水産加工場に海水を送る、「塩水取水塔」も復旧し、課題であった衛生管理のもとでのカキむき作業がようやく可能となりました。これにより本格的なカキの水揚げ再開に向けた準備が整いました。

震災から 1 年、町は一步一步、着実に動き出しています。



（昨年復旧した仮設魚市場）



（養殖生産者のみなさん）



（仮設ワカメ作業所）

東北の復興は途上にありますが、震災による被害を乗り越え、いち早く復旧・復興に取り組む本式典を何卒ご取材賜りますよう、お願い申し上げます。

本件に関する報道関係の皆様方からのお問い合わせは下記までお願いいたします。

宮城県漁業協同組合志津川支所 担当：安部（あんべ）支所長 （0226-46-2800）

公益財団法人 ヤマト福祉財団 担当：早川・渡辺（03-3248-0691）

## 記

1. 日時 平成 24 年 10 月 4 日（木） 午後 1 時 00 分開始

2. 場所 カキ処理場前  
南三陸町志津川字旭ヶ浦 5 番地 1 号

3. 主な出席者（敬称略）

- （1）宮城県漁業協同組合代表理事理事長 阿部 力太郎
- （2）南三陸町長 佐藤 仁
- （3）衆議院議員 小野寺 五典
- （4）宮城県気仙沼振興事務所副所長 梶塚 善弘
- （5）公益財団法人ヤマト福祉財団 理事長 有富 慶二

4. 施設概要

建物仕様 鉄骨造り（テント膜方式） 平屋建て 508.66 m<sup>2</sup>

敷地面積 3069.99 m<sup>2</sup>

※ 公益財団法人ヤマト福祉財団「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」は、東日本大震災で被災された地域の生活基盤の復興や水産業・農業の再生を支援することを目的に創設され、本年 6 月 30 日をもって募金と助成の募集を終了いたしました。募金は 142 億円 3,608 万 1,360 円となったヤマトグループの「宅急便 1 個につき 10 円の寄付」をはじめ、広く一般から募金をたまわり、総額 142 億 7,426 万 4,524 円となりました。助成につきましては、見える・速い・効果の高い支援を基本方針に、国の補助のつきにくい事業や、単なる資金提供だけでなく新しい復興モデルを育てるための事業に対し、第 1 次から第 5 次にかけて、計 31 件に対し、総額 142 億 6,600 万円の助成を行いました。

詳細につきましては、ヤマト福祉財団のホームページ (<http://www.yamato-fukushi.jp/>) をご参照ください。